

平成21年6月20日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19520119
 研究課題名（和文） 江戸時代の絵入本及び絵巻の調査研究
 —新出コレクションの調査を中心に—
 研究課題名（英文） Study on the illustrated books and handscrolls in the Edo Period
 :focusing on the research of a newly found collection
 研究代表者
 塩出 貴美子（SHIODE, KIMIKO）
 奈良大学・文学部・教授
 研究者番号：80144418

研究成果の概要：富美文庫所蔵の江戸時代の絵入本及び絵巻コレクションを調査し、その全容を明らかにした。同コレクションは絵入本10件27冊及び絵巻6件12巻からなり、その大半は奈良絵本・絵巻と通称されるものである。主題は古典、舞の本、お伽草紙、風俗に分類される。これらの全作品について、基礎データの収集、写真撮影、本文（詞書）の翻字、絵の分析等を行い、解題を作成した。また、一部の作品については個別に考察を加え、同主題の作品や様式的に近似する作品と比較した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：日本絵画史 絵入本 絵巻 物語絵 奈良絵本 お伽草子 舞の本 富美文庫

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究対象

本研究は、富美文庫所蔵の江戸時代の絵入本及び絵巻コレクションの調査を主目的とする。当該コレクションは絵入本10件27冊、絵巻6件12巻からなり、いずれも肉筆による美しい作品である。しかし、これまでいかなる分野からの調査もなされたことがなく、その存在はまったく知られていなかった。したがって、その全容を明らかにすることは、美術史はもとより国文学、書誌学、文化史、社会史、風俗史等の分野にも大いに有益であると思われる。

当該コレクションのうち絵入本10件は、いわゆる「奈良絵本」と通称されるものである。また、室町時代から江戸時代にかけては、題材、絵画様式、制作環境及び作品享受等の種々の点において、この奈良絵本ときわめて密接な関係を有する絵巻の一群が制作されている。このため、近年はこれらの絵巻群も含めて「奈良絵本・絵巻」として一括して論じられる傾向にあるが、当該コレクションの絵巻6件のうち3件は、これに該当するものである。したがって本研究の中核は、事実上、新出の奈良絵本・絵巻コレクションの調査であると言ってもよい。残る絵巻3件のうち1件は、近

年多くの作例が紹介されつつある江戸時代の白描物語絵の一例であり、その系譜上に位置づけられるべきものである。また、残る絵巻2件は風俗を主題としたものであり、江戸時代の風俗画のジャンルにおいて考察されるべきものである。

なお、当該コレクションの各作品の考察にあたっては、同種作品群との比較検討が重要であり、可能な限り、それらも調査及び研究の対象に含めることとする。

(2) 「奈良絵本・絵巻」研究の現状

上述のごとく、本研究の中核は新出の奈良絵本・絵巻コレクションの調査である。「奈良絵本」は、室町時代後期から江戸時代前期にかけて制作された挿絵入りの冊子で、題材には古典、お伽草紙、幸若舞、浄瑠璃などが取り上げられている。現存例としては、国内では国文学研究資料館、京都大学附属図書館、慶應義塾大学図書館など、また海外ではチェスター・ビーティー・ライブラリー、大英図書館、ニューヨーク公共図書館などが所蔵するコレクションが著名である。

ところが、このように大量の作品が現存するにもかかわらず、奈良絵本についての本格的な研究が始まったのは比較的近年のことである。特に注目されるのは、1978年にロンドン、ダブリン、ニューヨークで、また1979年に東京、京都で開催された奈良絵本国際研究会議であり、その成果は『在外奈良絵本』（同会議編、角川書店、1981年）及び『御伽草子の世界』（同会議編、三省堂、1982年）として刊行された。これらは美術史、国文学、その他の分野からの総合的な研究による成果であった。

しかし、その後の研究はもっぱら国文学が主導することとなり、新資料の紹介や類本研究が進められている。最近の成果としては、個別の作品論のほか、京都大学文学部国語国文学研究室編『京都大学蔵むらちものがたり』（臨川書店、2000～03年）、徳田和夫編『お伽草子事典』（東京堂出版、2002年）等の刊行がある。さらに2003年からは、慶應義塾大学の石川透教授が中心になって奈良絵本・絵巻国際会議が開催され、その成果は『奈良絵本・絵巻研究』として刊行されている。

また、近年の注目すべき展開としては、所蔵各機関によるインターネット上での作品公開が挙げられる。先述の国文学研究資料館、京都大学附属図書館、慶應義塾大学図書館はもとより、多くの大学や公立図書館で推進されており、より多くの作品を簡単に閲覧することが可能になりつつある。

このように、奈良絵本・絵巻研究の環境は従来よりも格段に恵まれたものになりつつある。しかし、美術史においては、お伽草子を主題とする室町絵巻についての作品研究

はあるものの、残念ながら奈良絵本・絵巻についての調査研究はほとんど進展していないのが実状である。

2. 研究の目的

(1) 新出コレクションの調査

本研究は、新出の江戸時代の絵入本及び絵巻コレクションを調査し、その全容を明らかにするとともに、併せて同種の作品群、特に奈良絵本・絵巻について可能な限り調査することを目的とする。そして、これらの調査を通じ、これまで美術史の分野では本格的な研究が進められていなかった江戸時代の絵入本及び絵巻、特に奈良絵本・絵巻について、美術史の見地から本文（詞書）と挿図（絵）の関係、表現の特質、制作と享受の関係、流布及び流通の状況などを考究する。さらに、それらの結果を踏まえ、これに先行する室町時代の絵入本及び絵巻との関係にも遡及しながら、このように文学と絵画が一体化した作品群の特質及び意義等を考察する。

(2) 本研究の特色

先述の「奈良絵本・絵巻」研究の現状で述べた如く、奈良絵本・絵巻に関する研究は、近年は主として国文学の分野で進められてきており、そこでの関心はもっぱら本文（詞書）あるいは書に向けられていた。挿図（絵）については、ほとんど論じられることがなく、たとえ論及される場合があっても、その内容は絵画史の見地からは充分であるとは言い難いものであった。一方、美術史の分野では、これまで奈良絵本・絵巻は閑却視され、本格的な調査及び研究の対象となることはほとんどなかった。しかし、これらの作品群は、文学と絵画が密接に結びついたものであり、遡れば平安時代以来の物語絵の系譜に列なるものである。したがって、本文（詞書）と挿図（絵）については双方からの研究が不可欠であり、さらには両者を一体化して捉える必要がある。本研究は、新出コレクションの調査を契機として、美術史の視点から、特にその挿図（絵）に注目し、これと本文（詞書）との関係、及び表現の特質等を考察しようとするものであり、これにより、これまでの研究を補完するとともに、奈良絵本・絵巻についての総合的な研究を目指すものである。

また、美術史においては、これまであまり顧みられることのなかった作品群を取り上げることにより、江戸時代の絵画史及び書道史の研究に新たな視点を加えることができる。特に、本研究の中核は新出コレクションの調査であり、10件27冊及び6件12巻という大量の新資料の紹介は、美術史だけでなく国文学及びその他の分野にも益するものがあると思われる。

3. 研究の方法

(1) 新出コレクションの調査

①調査及び撮影

新出コレクションの調査にあたっては、まず全作品の基本データを収集するとともに撮影を実施した。絵入本については、表紙及び裏表紙を含む全頁を、絵巻については表紙及び見返しを含む全料紙を撮影した。なお、絵入本のうち四目綴の作品6件14冊については、修理のため一旦綴じ糸を外し、その間に調査及び撮影を行うことができた。これにより、綴じ代部分を含む頁全体の調査及び撮影が可能になり、また一部については料紙の裏面も調査及び撮影した。

②本文(詞書)の翻字及び絵の分析

本文(詞書)の翻字を行い、一部の作品については同主題の諸本と校合した。また、絵については、特に本文と絵の関係、図様構成、絵画様式等に注目しながら分析を行い、一部の作品については、同主題の諸本との図様比較を、あるいは同時代の絵画作品との様式比較を行った。

③解題の作成

①および②の成果を踏まえ、各作品の解題を作成した。

④作品研究

一部の作品については、個別に作品研究を行った。

(2) 関連作品の調査

新出コレクションと関連性の高い作品、すなわち同主題の作品、あるいは絵画様式が近似すると思われる作品等を調査した。調査先は九州大学附属図書館、広島大学図書館、東洋大学附属図書館、東洋文庫、林原美術館等である。また、東京国立博物館資料館、東京国立文化財研究所等の写真資料を閲覧した。

4. 研究成果

(1) 新出コレクションの内容

新出コレクションは絵入本10件27冊及び絵巻6件12巻からなる。主題は古典、舞の本、お伽草子、風俗の四種に分類される。なお、風俗を描いた絵巻のうち1件は、詞書がなく絵のみである。以下、主題別に分類し、書誌情報(絵入本については題名・員数・形式・装丁・表紙・見返し・挿図数、絵巻については題名・員数・表紙・見返し・段数)を略記する。

①古典

- ・「伊勢物語」3冊 大型縦本 綴葉装 金欄 金箔押 21/14/14 図
- ・「白描伊勢物語絵巻」3巻 金欄 金銀箔散らし 17/17/16 段
本作品は、表紙の付け間違いにより、中巻と下巻の内容が入れ替わっている。
- ・「伊勢物語絵巻」2巻 紺紙金泥絵 金箔

押 25/24 段

- ・「徒然草」5冊 大型縦本 綴葉装 金欄 金箔押 15/15/15/15/15 図

②舞の本

- ・「大織冠絵巻」2巻 金欄 金箔押 6/7 段
本作品は、本来の3巻のうち中巻を欠いている。
- ・「ふしみときは」2冊 横本 四目綴 紺紙(空刷りによる文様あり) 白紙(本文料紙と同じ) 8/6 図

③お伽草紙

- ・「いわや」3冊 横本 四目綴 紺紙金泥絵 金箔押 8/8/8 図
- ・「きふねの本地」3冊 縦本 綴葉装 紺紙金泥絵 白紙(本文料紙と同じ) 5/5/5 図
- ・「もんじゅ姫」2冊 縦本 綴葉装 金銀欄 金箔押 7/6 図
- ・「あめわかみこ」2冊 大型縦本 四目綴 紺紙金泥絵 金箔押 8/7 図
- ・「むら松」3冊 大型縦本 四目綴 紺紙金泥絵 金箔押 7/8/7 図
- ・「さるげんじ」2冊 大型縦本 四目綴 打曇紙 金箔押 6/8 図
- ・「二十四孝」2冊 大型縦本 四目綴 紺紙金泥絵 金箔押 7/7 図
- ・「浦島本地絵巻」1巻 金欄 金箔押し 6 段

④風俗

- ・「四季十二月絵巻」2巻 金欄 金箔散らし 詞7段絵6段/詞7段絵6段
- ・「工商絵巻」2巻 金欄 金箔押 絵1段/絵1段

(2) 新出コレクションの特色

①内容

新出コレクションの内容は上述の通りである。「伊勢物語」が3点あるのが注目されるが、冊子本、白描絵巻、著色絵巻と三者三様である。なお彩色絵巻の下巻巻末には「延寶七年(1679)霜月吉日」の奥書がある。絵入本は大型縦本、縦本、横本の三種が揃っており、奈良絵本の展開を見ることができる。横本の「ふしみときは」は比較的早い時期のものと思われ、同じく横本の「いわや」、縦本の「きふねの本地」がこれに次ぎ、大型縦本の「伊勢物語」「徒然草」「あめわかみこ」等はさらに下った時期のものと思われる。

作品別に見ると、お伽草紙の「もんじゅ姫」が特に注目される。この作品については、これまで慶應義塾図書館本が唯一の伝本とされており、本作品はその二本目になる。本文は慶應義塾図書館本とほぼ同文であるが、異同箇所を検討した結果からは、どちらかといえば本作品の方が正しい本文を伝えていると言えるだろう。挿図は同数であり、同じ場

面を描いているが、図様は必ずしも一致しない。そのほかの作品については、古典、舞の本、お伽草紙ともよく流布した作品であり、類本も多い。

② 絵入本の表紙について

絵入本 10 件の表紙は、金欄あるいは金銀欄 3 件、紺紙金泥絵 5 件、紺紙（空刷りによる文様あり）1 件、打曇紙 1 件である。このうち紺紙金泥絵を表紙とする「二十四孝」及び「いわや」では、表紙の台紙に反古紙が使用されていることが判明した。紺紙の破れ目から台紙に書かれた墨書が見えていたのに注目し、赤外線撮影をしたところ、墨書を鮮明に写し出すことができた。

③ 四目綴の綴じ代部分について

四目綴の作品については、綴じ代部分はどうなっているのかという点に大きな関心があったが、今回の調査では綴じ紐を外した状態での調査及び撮影が可能になり、この点についていくつかの発見があった。第一に、表紙及び見返しへの折り返しは綴じ穴にかからないように短く処理されている。第二に、本来の綴じ穴のほかに下綴じ用の穴が二組ずつあけられている。第三に、挿図については、料紙の端まで完全に絵を描く場合、途中から彩色を省略する場合、綴じ代となる部分に境界線を引き、そこには何も描かない場合があり、それは作品によって、あるいは一つの作品のなかでも異なっている。第四に、挿図を省略したり、描かない場合には、余白となる部分に絵の番号を書き入れることがある。例えば「むら松」中巻の一枚目の絵の余白には「中の壺むら松」と書き入れられている。第五に、絵の端に境界線を思わせる直線が引かれたものがある。これは「二十四孝」の上巻二枚目及び下巻二枚目の絵に見られる。

④ 絵入本の挿図裏面の書き入れについて

四目綴の作品について、絵の裏面を調査したところ、「さるげんじ」には「さるげんじ一」以下の番号が書き入れられ、上下巻の計十四図に一から十四までの通し番号が付されていた。また「もんじゅ姫」は綴葉装であるが、絵は薄い料紙に描いたものを本文料紙に貼付している。その絵の料紙裏に同様に番号が書き入れられている。ただし、こちらは「文しゅひめ上の壺」「下の壺」とあり、上下巻で別に番号が打たれている。

(3) 作品研究

新出コレクションの一部の作品については、個別に作品研究を行った。塩出は「二十四孝」について、その概要をまとめ、特に料紙装飾を分析するとともに、本文を翻刻して諸本との校合を行った。さらに「ふしみときは」を取り上げ、その概要をまとめ、本文を翻刻するとともに、本文及び挿図について諸

本との関係を検討し、その位置付けを考察した。また、中部は絵画作品の様式研究の立場から、江戸時代の絵入本及び絵巻に分類される作品群の研究を試みた。これらの作品は様式的に極めて広範なものを含み、およそ一分野とは言い難い状況であるが、その中から特に華麗に装飾された「豪華本」の特質を考察するため、本コレクションの「むら松」及び「大織冠」を中心に、その特質を分析した。さらに、この両作品と共通する特色を示す作品を見出すことに努め、美術館及び大学図書館等に所蔵される作品の調査を試みた。宮崎は、本コレクション中に 3 件ある「伊勢物語」作品の中から白描絵巻 3 巻本を取り上げ、近年多くの作例が紹介されつつある江戸時代の白描物語絵の展開を追いながら、本作品の特徴を検討し、その位置付けを考察した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

塩出貴美子「個人蔵『二十四孝』について」
『奈良大学総合研究所所報』第 17 号 査読無 2009 年 23-55 頁

[図書] (計 1 件)

塩出貴美子・中部義隆・宮崎もも 自費出版『江戸時代の絵入本及び絵巻の調査研究－新出コレクションの調査を中心に－平成 19-20 年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書』2009 年 72 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塩出 貴美子 (SHIODE, KIMIKO)
奈良大学・文学部・教授
研究者番号：80144418

(2) 研究分担者

中部 義隆 (NAKABE, YOSHITAKA)
財団法人大和文華館・学芸部・学芸部次長
研究者番号：70416262

宮崎 もも (MIYAZAKI, MOMO)

財団法人大和文華館・学芸部・学芸部部員
研究者番号：10416266

(3) 連携研究者

なし